

問1 聖徳太子が、家柄に関係なく才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？

1. 御成敗式目 2. 冠位十二階 3. 十七条の憲法 4. 大宝律令

問2 百済などの朝鮮半島諸国から、高度な技術や学問を持って日本へ移り住み、飛鳥時代の国づくりに貢献した人々のことを何という？

1. 庄屋 2. 年寄 3. 渡来人 4. 豪族

問3 聖徳太子が、役人たちの道徳や政治の心得として定めた法令を何という？

1. 十七条の憲法 2. 大化の改新 3. 大宝律令 4. 養老律令

問4 白村江の戦いのあと、九州の防衛や外交の拠点として置かれた役所を何という？

1. 平城京 2. 平泉 3. 平安京 4. 大宰府

問5 奈良県の法隆寺などが代表する、現在世界で最も古い建物群のことを何という？

1. 石造建築 2. 木造建築 3. コンクリート建築 4. レンガ造建築

問6 天智天皇が全国的な統治を強化するために初めて作成させた、国民の名前や本籍を記録した台帳を何という？

1. 租庸調 2. 公地公民 3. 戸籍 4. 班田収授法

問7 豪族中心の政治から脱却し、天皇が権力を集中させる国家体制を何という？

1. 氏姓制度 2. 地方分権 3. 封建制度 4. 中央集権

問8 壬申の乱に勝利して即位し、天皇中心の国づくりを進めた天皇は誰？

1. 天武天皇 2. 聖武天皇 3. 天智天皇 4. 桓武天皇

問9 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？

1. 遣明使 2. 遣隋使 3. 勘合貿易 4. 遣唐使

問10 663年、日本軍が唐・新羅の連合軍に敗れ、百済の復興に失敗した戦いを何という？

1. 白村江の戦い 2. 承久の乱 3. 元寇 4. 壬申の乱

問11 日本が隋や唐の国家体制を手本にして、後に整えていった法典に基づく統治のしくみを何という？

1. 班田収授法 2. 大化の改新 3. 封建制度 4. 律令制度

問12 飛鳥時代に、推古天皇の摂政として仏教を広め、法隆寺などを建立した人物は誰？

1. 推古天皇 2. 天武天皇 3. 聖徳太子 4. 中大兄皇子

問13 聖徳太子や蘇我氏が中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？

1. 国風文化 2. 仏教文化 3. 鎌倉文化 4. 天平文化

問14 大津宮への遷都などを通じて基礎が築かれた、天皇中心の法に基づく国家を何という？

1. 律令国家 2. 中央集権国家 3. 封建国家 4. 古代国家

問15 推古天皇のもとで摂政として登用され、聖徳太子とともに政治を行った有力豪族は誰？

1. 聖徳太子 2. 中臣鎌足 3. 物部守屋 4. 蘇我馬子

答え合わせ・解説

問1	答え 2 冠位十二階	冠位十二階は、役人に能力や功績に応じて12段階の位を与え、それぞれ色分けされた冠を身につけさせる制度です。これにより、家柄にとらわれない公正な人事を行い、天皇を中心とした国家運営を支える官僚組織を目指しました。
問2	答え 3 渡来人	渡来人は、漢字や儒教、仏教などの学問のほか、機織り、金属加工、土木技術、須恵器の製作法など、高度な知識や技術を日本にもたらしました。彼らの技術は、大和政権の国づくりや、寺院の建設、都市計画に不可欠なものとなりました。
問3	答え 1 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、仏教や儒教の考え方を基盤に、役人が守るべき心構えを説いたものです。「和をもって貴しとなす」といった協調の精神や、天皇に仕える者としての自覚、公正な政治を行うことなどが記されています。
問4	答え 4 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問5	答え 2 木造建築	法隆寺の西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物群として有名です。木材の特性を生かした緻密な接合技術や、金堂・五重塔に見られる建築様式は、当時の高度な土木・建築技術を今に伝えています。
問6	答え 3 戸籍	天智天皇が作成させた戸籍（庚午年籍）は、日本で初めて全国的に行われたものです。これにより、誰がどこに住んでいて、どのくらいの労働力があるのかを国が管理できるようになりました。これにより、徴兵や税の徴収がスムーズに行える体制が整えられました。
問7	答え 4 中央集権	飛鳥時代から大化の改新を経て目指されたのが「中央集権」です。地方の豪族から土地や民を公のものとする「公地公民」を掲げ、中央政府が全国を一括して管理するシステムを構築しました。
問8	答え 1 天武天皇	天武天皇は、即位後に天皇中心の政治体制を整えました。皇親政治を行いながら、律令制度の導入に向けた整備や、歴史書の編纂を命じるなど、国家としての骨格作りを行いました。
問9	答え 2 遣隋使	607年に小野妹子らが派遣されました。彼らは隋の皇帝に国書を届けて対等な外交関係を求めるとともに、仏教の教義や政治の仕組みを学び帰国しました。これにより日本には大陸の新しい文化が急速に流入しました。
問10	答え 1 白村江の戦い	663年、現在の韓国付近にある白村江（はくすきのえ）という場所で、日本軍は唐と新羅の連合軍と激戦しました。しかし、最新の戦術を持つ連合軍に日本は完敗しました。
問11	答え 4 律令制度	律令制度とは、刑罰を定めた「律」と、行政や税の決まりである「令」からなる法体系のことです。飛鳥時代の聖徳太子の時代から準備が始まり、大陸の制度を参考にしながら、天皇を頂点とした官僚的な政治システムを構築しました。これにより全国の土地や人々を直接管理することが可能となりました。
問12	答え 3 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を敬う思想を広めました。また、仏教を深く信仰し、法隆寺や四天王寺を建立するなど、宗教面からも国の平和を祈願しました。
問13	答え 2 仏教文化	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。中国の南北朝時代や朝鮮半島の文化の影響を強く受けており、大陸風の優美な建築や彫刻が特徴です。法隆寺などの寺院が代表的です。
問14	答え 1 律令国家	律令国家とは、国の決まりである「律」と「令」に基づいて、天皇が全国を統治する国家の形です。都に政治の中心を置き、官僚が整備され、国民は公地公民（土地と人民は天皇のもの）という原則のもとで戸籍に登録されました。これにより、日本は法治主義的な性格を強めた国へと生まれ変わりました。
問15	答え 4 蘇我馬子	推古天皇が即位した際、馬子は甥である聖徳太子を摂政として登用し、新しい国づくりを主導しました。仏教の導入を積極的に進め、四天王寺の建立などにも深く関わりました。